

令和4年度 学校関係者評価書（川南町立多賀小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
<b>I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進</b>							
1	家庭教育支援の充実に努める。 ○ 家庭学習提出95% ○ 年2回、家庭学習具体的姿の提示	4		○ 啓発及び提出率95%以上は達成できた。2回以上の交流についても計画している。今後はホームページ等にも学習の様子を載せ、より良いモデルをより広く提示していきたい。	4.0		○ 親子の対話が少ないことも問題の一つである。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ○ 各行事等の参加率90%以上 ○ PTA執行部等との綿密な連携	3	3.5	○ 参観日は88.3%、夏の奉仕作業は89%の参加率であった。行事などをより魅力的にしていける必要がある。感染症対策で実施できない行事がある中、保護者と協力して立ち上げた企画を運営できた。 ○ 企画運営を学期1回計画できたが、ICT等の活用を考える必要がある。課題もあつたが現場で連携及び即時対応で解決できた。	3.3	3.7	○ 家庭で新聞記事を取り上げて自学で親子とともに学ぶことができるようにするといのではないか。 ○ 今回立ち上げた活動における経験が大人になってからも心に残り、心豊かな人に育つのだと思う。
<b>II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進</b>							
1	読書活動を推進する。 ○ 全児童の目標設定と、その到達 ○ 読書好きの子をまむ活動の推進	4		○ 読書啓発、図書委員会との連携、ボランティアについて着実に実施できている。 ○ 掲示や読書欲を喚起する手立てを工夫したことで、児童一人当たりの図書貸出数が増加(昨年度比+4.2冊)しただけでなく読書の質の向上を図るための工夫に取り組んだ。	4.0		○ 子どもの読み聞かせが上達している。聞いている子どもの表情もよい。 ○ 新聞に作品が取り上げられたものを学校で掲示しているので、子どもが意欲をもって取り組もうとする。 ○ 発達段階に合わせた本を選定しておくといよい。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ○ 授業力向上につながる授業研究の究明 ○ 単元テスト平均得点率85%以上	3		○ 初期研修への模範授業を通して相互授業参観ができた。また、学期毎のチェックポイントの活用と振り返りを確実に実施できた。 ○ RSTに対する職員の理解を深めた。また、タブレットを活用した新聞記事の活用等について実践し、読解力向上につなげている。 ○ 単元テストについては平均得点85点以上を達成できている。平均得点に満たない児童を75点に、平均得点を達成できた児童を90点以上になるよう指導の工夫を図る必要がある。	3.7		○ 「紙」から「画面」に変わりつつあるが、それでも紙を手にとって読むことの大切さを味わわせて欲しい。辞書を引くことも大切にしてもらいたい。 ○ 地域の地名から学びにつなげると語彙力の向上にもつながるのではないかと。 ○ 「保護者は先生を信頼して安心して子どもを預ける」といった姿勢が必要だと感じる。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ○ ふるさと学習の充実 ○ 「いのちを大切に」の授業の企画 ○ いじめ報告「0」無し(見つける目)	3	3.3	○ 産業推進課の方を招き畜産業について学習できた。見学まで広げられなかったのが、今後は地域の人材を生かして、地域の畜産業について、肌で感じる学習を行っていく必要がある。 ○ 「命を大切に」の授業を6月から7月にかけて、全学年実施した。また、道徳の時間の授業参観等を通して実施している。	3.7	3.8	○ 食育についての学びは「いのちの大切さ」についても学べる。今後は是非続けて欲しい。 ○ ふるさと学習は中学校までつなげて欲しい。また、「地域の先生」を生かした活動から始めると家庭まで広がる。
4	特別支援教育を推進する。 ○ 個別の支援について共通理解共通実践 ○ 特別支援コーディネーターを中心とした協力体制の構築	3		○ 全員が発言を行い情報を確実に共有できた。各関係機関とも必要に応じて連携・情報共有できている。 ○ 支援を要する児童についてコーディネーターを中心に共通理解を図るとともに、支援の在り方について研修を行った。	3.7		○ 取組や活動が、心を豊かにして思いやりのある子に育つことにつながることを願っている。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ○ 地域行事と学校教育の関連した計画	3		○ 地域の方々が参加してくださった花壇整備等について学校HPでの紹介を行ったり、教科等の学習で地域人材の皆様に支援していただいたりした。キャリア教育との視点での振り返りを充実させる必要がある。	3.7		○ 地域と学校で学校教育の枠を超えた学びがあるといよい。 ○ 河川プールについて地域の子どもが使っていることが少ない。
6	キャリア教育を推進する。 ○ キャリアパスポートを生かした教育の推進 ○ 「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	3		○ 行事等においてキャリアパスポートを用いて振り返りを行い、100%活用できた。また、キャリア教育関連の実践も日々行っている。 ○ 30回以上、延べ人数で50人以上の地域人材の活用を予定しており行うことができた。	3.7		○ 以前は当たり前のようにできていた活動が生活様式が変わり、活動できないことが増えて大変だと感じる。生活様式が元に戻って活動できるようになれば、ねらいとする教育を推進できるのではないかと考える。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ○ 学校教育及び家庭学習におけるICT活用の推進	4		○ 中高学年においては常に机の中にタブレットが入っている状態でICT機器の活用ができています。低学年向けの活用方法について検討の必要がある。 ○ 中高学年は週1回の持ち帰りを目標とし、実践を進めている。タブレットを使った新聞記事の活用等について家庭学習の中で実践している。	4.0		○ ICT機器に係るマナーやモラルの問題についても学校と家庭の両方でじっくりと学んでいく必要がある。
<b>III 教育を支える体制や環境の整備・充実</b>							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ○ 教職員の意識改革の推進 ○ 内容に応じた校務分掌の工夫(全体・小集団・個人)	3		○ 個別に声かけをし時間管理の在り方を支援している。今後のライフプランなどを見通した働き方についてのアドバイスをしている。 ○ 主題研究や学校通信を通して教職員の資質向上を図り、事故・不祥事0を続けている。	3.7		○ 現状から一歩でも前進できるよう子どもたちのために力を発揮して欲しい。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ○ 緊急時・不意時における危機管理の徹底と常時危機意識の高揚 ○ 児童の危機意識を高める指導	3	3	○ 書式の統一等を行いマニュアル見やすくし、実際に使えるよう改訂した。 ○ 各避難訓練時を活用し、具体的な行動例等について考えさせた。また、TO-DOリストを計画の段階で活用し、やるべきことをはっきりさせた。 ○ 児童の悩み相談の時間を生かし、児童へのセクハラ等についても敏感に把握することができるようになっている。	3.3	3.5	○ 多賀地区は災害に関しての関心度があまり高くない。しかし、地震や不審者に関しての関心度についてはこれからも高くもって欲しい。
<b>IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進</b>							
1	学校体育の推進に努める。 ○ データを生かした指導の充実 ○ 個の力を伸ばす授業及び日常指導 ○ 体を動かすことが好きになる教育の推進	3	3	○ 体力テストの分析から課題を明らかにし、次年度に向けて具体的な方策について計画している。 ○ ICTを使って、自らの動きを客観的に見られるようにし、動きの改善に生かす指導等工夫を行っている。 ○ 体を動かすことを楽しみつつ、必要な運動を行うことができる授業の工夫等を行ったり、教職員による外遊びの指導を行ったりして個の力を伸ばしている。	3.0	3.0	○ 運動会での団結力や体力の発揮の様子が素晴らしかった。 ○ エイサーの動きの中で慣れすぎた動きが見られて残念だった。せっかく真剣に取り組んだことを披露する場面を大切にしたい。